



玉置神社

「巻第一  
神代」

あめつちのはじまり

『日本書紀』は全30巻から成り、冒頭の2巻が「神代」、残りの28巻に歴代天皇の在位中の出来事を記しています。今回は「神代」について紹介します。

昔は、天と地、陰と陽の区別がない世界でしたが、自然と明るい気が天となり、重く濁っている気が地となりました。はじめの頃、国土は魚が水に浮いているように漂っていました。その天地の中に国常立尊が最初の神として生まれます。さらに神々が生まれ、伊弉諾尊と伊弉冉尊も生まれました。二人が天の浮橋から天の瓊矛で海をかき回して引き上げると、矛の先から滴り落ちた潮が固まって島ができました。二神はその島に降り立ち、日本の国土や森羅万象の神々を生みました。それから日の神・大日靈貴(天照大神)、月の神・月弓尊(月夜見尊)、そして最後に素戔嗚尊を生みました。

素戔嗚尊は、数々の乱暴を働いたため、怒った天照大神は天石窟に閉じこもってしまいます。すると、国中が暗闇につつまれ昼か夜かわからない状態になりました。八十萬神たちは河原に集って相談し、磐戸の前で天鈿女命が巧みに

舞うなど皆で祈禱を行いました。外が気になった天照大神が顔をのぞかせた瞬間に、手力雄神が外へ引き出し、国は再び光を取り戻したのです。

その後、天照大神の孫の瓊杵尊を天上の国から地上の高千穂の峰に降ろしました。その曾孫が初代天皇の神武天皇として即位し、『日本書紀』は神代から天皇の巻へと移っていきます。

玉置神社

十津川村の玉置山の頂上付近に鎮座し、主神は、「天地ができた世界の始まりに現れた最初の神」として記される「国常立尊」です。神社名は、神武天皇が十種神宝のうちの「玉」をこの地に鎮め(置き)て、武運を祈願したことに由来しています。



第13回 全国高校生歴史フォーラム 研究レポート募集中!

奈良県と奈良大学共催の「全国高校生歴史フォーラム」を今年も開催! 全国の高校生から歴史や地理、文学などに関するレポートを募集中! 詳しくは下記へ。

問 第13回全国高校生歴史フォーラム実行委員会(奈良大学)

☎ 0742-41-9588

全国高校生歴史フォーラム



問 県文化資源活用課 ☎ 0742-27-8975 FAX 0742-27-0213 詳しくは